

# とよなかの市民活動 共同テスク

2014年4月発行 第11号

とよなかの市民活動・共同テスク実行委員会

- (社福) 豊中市社会福祉協議会
- (公財) とよなか国際交流協会
- (一財) とよなか男女共同参画推進財団
- (公財) 豊中市スポーツ振興事業団
- (特活) とよなか市民環境会議アジェンダ21
- (特活) とよなか市民活動ネットきずな(事務局)



## (公財)豊中市スポーツ振興事業団

公益財団法人豊中市スポーツ振興事業団には、財団設立25周年をきっかけに誕生したマスコットキャラクター『とよピヨ』がいます。

『とよピヨ』は、**体はハンドボール、頭にバドミントンのシャトル、足は水鳥**みたいになっていてプールも泳げる?! **道着を着ていて、羽はバドミントンと卓球のラケット**のこれから大きく成長する男の子の**ヒヨコ**です。誕生日は6月4日♪

最近はいろいろなイベントにお出かけし、ダンスイベントでダンスをしたり、消防フェスタに参加したり、インターネットテレビに生出演したり、大忙しです。今は、オリジナル体操を練習中!! 新年度も豊中市内のイベントにいっぱいお出かけするので、見かけたら『とよピヨー!!』と大きな声で呼んでね!!



## (特活)とよなか市民活動ネットきずな

「きずな」の10年と豊中の市民活動



「市民力を紡ぐある試み」を発行

「きずな」は3月に設立10年を迎えました。いろんな分野で活動する市民たちがともに豊中の「市民力」を強めたいとの思いで作り上げてきたネットワークが「きずな」でした。「きずな」が豊中市から9年間にわたり、豊中市民活動情報サロンを運営受託したこともあって、多くの市民や団体と知り合え、理解し合える関係が広がり、支えられ、10年の歴史を刻むことができました。市民の自立と自由度を大切に、市民の間、団体の間、行政との間など、さまざまな連携や「協働」の可能性を模索してきました。市民の思いを紡ぐ「触媒型」ともいえる「中間支援」組織となったのは、「きずな」流のいろんな分野で活動する市民のネットワークと、課題にプラグマチックかつ柔軟に対応する組織運営、それを可能にする市民の「信頼」関係があったからだと思います。

今年3月発行の10年記念誌では、いろんな考えを持った市民が、自由に語り合いながらひとつの組織を維持し、市民のネットワークを広げ、深めていくひとつの試みの事例としてまとめてみました。



## (一財)とよなか男女共同参画推進財団

豊中市男女共同参画推進条例制定10年  
人と地域を元気にする男女共同参画

2014年度のすてっぷは「人と地域を元気にする男女共同参画」をテーマに、事業をとおして地域の活性化、課題解決に取り組んでいきます。2014年の基本的な方針を紹介します。

- ① 「参加と対話」～人が集まり、そこから動きが起こる「場」づくりを進めます。  
「すてっぷに行く」と楽しくためになる「行くたびに新しい」と、リピーターになってもらい、居場所としてもらうことをめざします。
- ② 「自立・共生・連帯」～女性をつなぎ、一人ひとりの生き方をサポートします。  
働きたい、働き続けたい女性の就労支援。また、社会と接点を持ちたいと考える女性が学び、つながり、対話を通して一歩踏み出すことを支援します。
- ③ 困難を抱える女性の視点に立ち、市民から信頼される存在をめざします。  
職場や家庭、地域で不安や疎外を感じている女性たちがホッとできる場であり、求められる情報や相談を提供します。
- ④ 地域のごく様々な組織・個人とつながり、地域に根を張ります。  
市民団体、NPO、公共団体などと協力して人権・男女共同参画の取り組みを行うことによって「人権文化のまちづくり」の輪を広げます。

これらを基本に、講座、情報ライブラリー、女性相談、市民活動支援などの事業を、実施します。

### 4月の講座ピックアップ

- ★4月19日(土)14:00~16:00  
すてっぷ連続ゼミナール①  
テーマ：親と子の距離を縮めるコミュニケーション  
思春期の子どもの関わり方について考えます。  
講師：伴野多鶴子  
(財団評議員、豊中市地域教育協議会連絡会会長)
- ★4月21日(月)10:00~12:00  
メディアでおしゃべり①  
子育て期の親世代が集まって「テレビと子育て」を語り合う3回講座

## (特活)とよなか市民環境会議アジェンダ21

2014年度の環境交流センター



とよなか市民環境会議アジェンダ21は、環境交流センターの運営2年目になります。1年目の2013年度は、来場者が12,000人を超え、市が定めた目標の10,000人(最低目標9,200人)を大きくクリアできました。2月に実施した来場者アンケートでも、「気軽に立ち寄れる」「催しが多くなった」「以前より温かみがある」「敷居が低くなった」「感じがよい」など、好意的な意見を多数寄せいただき、地域の方々との丁寧に関わっていることが結果に現れはじめています。

2014年度は、当団体が目標に掲げる「3年目で来場者15,000人達成」に向けたステップとして、さらに親しみを持ち、多くの方にお越しいただける施設をめざします。そのため、ファンクラブ制度の運用開始、印刷機の利用、温かい飲料の提供などのサービスを増やすとともに、リユースバザーの一般募集やギャラリーの拡大などを行います。環境分野のテーマとしては、子どもたちとその保護者や、若い親世代に向けた環境学習を充実させ、子ども関係の講座やイベントの増加、保育付き回数の増加などに取り組みます。

## (公財)とよなか国際交流協会 「20(ハタチ)+1歳」の歩み

20年(ハタチ)の年として多彩なイベントがあり、目まぐるしく駆け巡ってきた1年でした。11月18日の誕生日には記念誌「ハタチの歩みの中で」を出版し、3月末日に「ハタチフォトブック」を発刊しました。たくさんの人々との出会いと力の結集によって、パワフルで彩り豊かなとても充実した1年となりました。また、「国際交流功労賞」(大阪府)と「人権賞」(大阪弁護士会)をいただき、国際交流と人権尊重の両分野で評価されたことは、この上ない喜びであるとともに、これからの励みにもなりました。

とよなか国際交流協会は「20(ハタチ)+1歳」の新たな歩みとして、昨年度末は20周年に豊中市が新たに『多文化共生指針』を策定しました。これを機に、これまで以上に地域に根ざし、幅広い市民(外国人市民を含む)とともに「多様な文化や人々が尊重される豊かで魅力あるまちづくり」に参画していきます。



無料配布しております。ご希望の方は、「きずな」事務局にご連絡ください。



東日本大震災に関しては、継続した被災地支援を引き続き展開していきます。



(社福)豊中市社会福祉協議会  
平成26年度も市民の皆さんが必要としている福祉課題について積極的に事業を展開！  
市民の皆さんの「理解」と「協力」を！  
●平成25年度の主な取組み  
★平成27年度から施行される「生活困窮者自立支援法」を前に、「生活困窮者自立促進支援モデル事業」の「総合相談業務」を豊中市から一部受託し、多くの相談対応に当たった。  
★認知症高齢者や障害者が徘徊した場合に、予めメール受信登録をした協力者に徘徊者情報をメール送信し、発見の協力要請を行う  
「徘徊SMSメール」の模擬訓練等を実施し、メール受信に協力していただく登録者の拡大等に努めました。  
★歳以上の高齢者の介護予防と地域の福祉人材の育成を目的とした平成24年10月からスタートの「とよなか地域ささえ愛ポイント事業」は、平成25年度に初めて1年間フルスパンで事業に臨みました。立ち上がり当初と異なり、活動登録者も受入れ側の介護保険施設等も大幅に増加し、今年3月に行われた研修・交流会では、「この事業に登録して活発に活動してからは、活動先の対象者との会話が楽しく、持病が出なくなった」といった活動登録者からの嬉しい感想や受入れ先からは「職員と違った視点での対応を頂くので、より適切な対応や新たな気づきにもつながり、利用者もとても喜んでる」といった感想が聞かれました。  
★3月11日には、発災後3年を迎えた東日本大震災について、被災者・被災地へ思いを寄せるために「3・11東日本大震災 支援の集い」を開催しました。キャンドルセレモニーに使用したろうそくは、就労等に距離のある方への支援のための事業「豊中 びーのびーのプロジェクト」のメンバーが、ひとつひとつ思いを込めて手作りしたものです。

※ この壁新聞は、6つの中間支援団体のとりくみを、分野をこえて情報発信しようと考えた取り組みです。